

たから

TAKUSUI
No. 637

11
November, 2009

発行 (財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



大輪田塾入塾式で、山田塾長の訓辞を受ける第5期生

Report

JF組合長会議開催される

JF全国代表者集会 開催!

大輪田塾平成21年度修了式ならびに入塾式開催

NEWS 新ノリコー誕生!! (乗組員厚生共済)

JF組合長会議 開催される



共通役員制の討議の様子

去る10月16日(金)、兵庫県水産会館において、JF兵庫漁連、JF兵庫信漁連ならびにJFぎょさい兵庫の3団体の主催による「兵庫県漁業協同組合長会議」が開催されました。

まず、主催者を代表して、JF兵庫漁連・山田会長の挨拶があった後、来賓として兵庫県農政環境部農林水産局水産課・小林課長補佐の挨拶があり、議事に移りました。

1つ目の議事は、『三団体共通役員制について』をテーマとし、「共通役員制諮問委員会」からの提言の内容について、三団体の事務局より報告がなされました。

三団体の共通役員制については、厳しい経営環境や課題を克服するため、三団体が意思統一を行い、一体的な運営を進めることを目的に、平成13年より継続されてきた制度ですが、三団体の経営への参画の機会を増やしてほしいという会員JFからの要望に基づき、昨年2月に「共通役員制諮問委員会」が設置され、5回の協議を経て提言書がまとめられました。

三団体事務局より、共通役員制の導入からその後実施された制度の見直しの状況に係る説明の後、今回の改善内容として、単独役員を設け、定数を変更することなく、全体としての役員数を増加させる案について報告がなされました。提言書の報告に引き続き、活発な意見交換がなされ、今後、この提言書に基づいて共通役員制を進めていくことが確認されました。

2つ目の議事としては、「現在の政局と全国JF代表者集会に係る新運動方針について」と題して、JF全漁連・代表理事専務の宮原邦之氏よりご講演いただきました。

先の衆議院選挙では、民主党が圧勝し、自民党が大敗するといった歴史的な選挙となり、国民からの強い支持を受けて誕生した新政権であるものの、一方で今後の水産

政策がどの様に変化するのかが気がかりな点であり、JFグループとしてのこれからの対応方針等についてご講話いただきました。

また、あわせて10月30日に開催の全国JF代表者集会において提出される、向こう5年間に取り組む運動方針「JFグループ 組織・経営・事業戦略」について説明がなされました。漁業就業者の激減が予想される中、JF自らが将来ビジョンを掲げ、組織・経営・事業改革を行うことにより、組合員の経済的・社会的地位の維持・向上を図るとともに、水産業・漁村の活性化並びに国民経済の発展に貢献していかなければならないこと等について説明があり、出席者は熱心に耳を傾けていました。

今後も、JFグループではJF組合長会議やJF参事会議等の開催やJFへの巡回を強化すること等を通じて、JFとの緊密な連携を保持していきたいと考えています。



JF全漁連・宮原代表理事専務の講演

JF全国代表者集会 開催!

戎本組合長(JF明石浦)が意見表明 新運動方針を採択!



JF全国代表者集会の様相

今後5カ年間の全国漁業者の行動方針を定める「JF全国代表者集会」(主催: JF全漁連)が、10月30日、東京・グランドプリンスホテル赤坂において開催され、本県からはJF兵庫漁連・山田会長ほか10名が参加しました。

全国の漁協、系統団体からの参加者550人が会場を埋める中、JF全漁連・服部会長は「JFの役割・存在意義を今



戎本組合長 (JF明石浦) の意見表明

一度、組合員・役職員間で再認識したうえで、JF自らが将来ビジョンを掲げ、組織・経営・事業の改革を断行しなければならない。JFが地域社会の中核として、また、水産物の安定供給の担い手として、今後も社会に貢献してい

く」と挨拶。同・櫻庭副会長が新運動方針「JFグループ組織・経営・事業戦略(2010~2014)」を提案し、JF全国女性連・宇都会長による呼びかけの後、満場一致で新運動方針が採択されました。

続いて、JF全漁連・大井総合政策部長が「組織・経営・事業改革の断行と水産政策の確立に関する特別決議」を提案し、満場一致で採択されました。

なお、運動方針採択に先立って行われた意見表明では、販売事業改革の先進漁協として選ばれたJF明石浦の戎本裕明組合長が、「販売事業活性化への取り組みについて」の題で全国の漁業者を代表して取り組みを報告。「浜から魚の素晴らしさを発信し続けることが必要であり、JFグループ一丸となった販売事業改革に取り組む」と力強く表明し、会場から盛大な拍手が起こりました。

写真提供: JF全漁連

新運動方針 JFグループ組織・経営・事業戦略(2010~2014年度)

基本認識

格差社会の拡大や世界的な景気悪化によりJFの事業・組織を取り巻く環境が厳しさを増す中、三位一体の協同組織であるJFの意義・役割を再認識した上で、JF自らが将来ビジョンを掲げ、組織・経営・事業改革を行うことにより、組合員の経済的・社会的地位の維持・向上を図るとともに、水産業・漁村の活性化並びに国民経済の発展に貢献する。

重点取組事項

構造的課題や各事業の現状・課題等を踏まえ、以下の4点を「重点取組事項」として戦略的に取り組む。

- ① 組織・事業再編と人づくり
- ② 経営改革へ向けた取組み
- ③ 事業改革へ向けた取組み
- ④ 協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献

新ノリコー誕生!!

(乗組員厚生共済)

ノリコーが平成21年10月1日より
新しく生まれ変わりました。

ノリコーとは…

不慮の事故による万一の場合と後遺障害を保障し、さらに特約を付加することで、入院・手術、通院や、病気による万一の場合についても保障する、共済期間を1年(漁業従事期間に応じた短期加入可)とする短期の共済です。

ノリコー、ここが変わった!

— ノリコー傷害共済契約の場合 —

**入院共済金を1日以上入院で
初日からお支払いします**

(平成21年9月末までは5日以上入院で
初日からお支払い)

※主契約に入院給付担保特約を付加した場合です。
(既存契約については、平成21年10月1日以降の事故を対象)

**入院共済金額の最高限度を
10,000円に引き上げました**

(平成21年9月末までは入院共済金額の
最高限度5,000円)

※主契約に入院給付担保特約を付加した場合です。
※入院共済金額10,000円の加入は、主契約共済金額が
1,000万円以上で66歳未満のご加入者に限ります。

**所定のギプス固定期間を
通院日数とみなします**

※主契約に入院給付担保特約および通院給付担保特約
を付加した場合です。

※所定のギプス固定期間とは、不慮の事故により、頭がい、
せき柱、体幹または四肢の骨折によりギプス等により
固定をした期間をいいます。

**I型(沿岸漁業従事者向け)に7日
または15日の短期契約を新設**

※I型の短期(7日または15日)の加入者は、病気死亡
担保特約を付加できません。



お問い合わせはお近くの組合又は、JF共水連兵庫まで TEL078-919-1377

ライフジャケットを着用しましょう

JF JF共済

ノリコーI型は、沿岸漁業で働く

(乗組員厚生共済 傷害共済契約)

皆さんのための保障制度です。



ご加入できる方

ノリコーI型(沿岸漁業)にご加入できる方は、10トン未満の漁船漁業(小型さけ・ます流し網漁業、中型まき網漁業および小型機船底びき網漁業で5トン以上のものを除く)、瀬戸内海機船船びき網漁業の乗組員または、漁業権漁業(定置・区画・共同)に従事する方です。

ご加入方法と保障コース

下欄の保障コースより1つを選びます。入院給付担保特約を付加する場合は入院共済金額(1日あたりの額)を選んでください。主契約共済金額は50万円単位で設定できます。

コース	保障内容
A5	事故による死亡・後遺障害・入院・(通院)と病気死亡
A3	事故による死亡・後遺障害・入院・(通院)
A2	事故による死亡・後遺障害と病気死亡
A1	事故による死亡・後遺障害

主契約共済金額の限度

1人 3,500万円まで

主契約共済金額は50万円から3,500万円までの希望する額を選べます。

入院給付担保特約

1日あたり 最高 10,000円

入院共済金額は1,000円から5,000円までの希望する額または10,000円から選べます。

※主契約共済金額の2/1000または10,000円を限度とします。ただし、10,000円の加入は、主契約共済金額が1,000万円以上で66歳未満の特定漁船乗組員特約を付加しない契約(記名式契約)のご加入者に限ります。



通院給付担保特約

入院給付担保特約をつけた契約(A3、A5コース)に付加することができます。入院共済金額の1/2で、2,500円を限度とします。

病気死亡担保特約

主契約共済金額の1/2で、500万円を限度とします。責任開始日の年齢が60歳以上66歳未満のときは病気死亡共済金(または病気高度障害共済金)は共済約款の定めにより削減され、66歳以上のときはお支払いできません。

漁協総加入割引

共済期間を1年間とし、漁協地区の沿岸漁業に従事する正組合員の1/2以上の人がまとめてご加入されますと『漁協総加入割引』の制度が適用になり、共済掛金の10%が割引になります。

淡路地区でマダコ畜養試験実施!

淡路地区漁協青壮年部連合会

平成20年度より、富島漁協青年部を中心とする淡路地区漁青連ではマダコの資源増大を目的として、人間の管理下で効率的な畜養を行い、その成長度合いを調査してきました。

この程、平成21年度の調査が終了したので、その成果をお知らせします。



目的

前年に引き続き、100g~150gの商品単価の安いマダコを使い、小割生簀(6m×6m)にて畜養試験を実施し、成長度、畜養方法の改善を目指しました。

内容

上記内容で畜養、及び成長度を調査の上、あわせて販売して水揚げ額を見て、その向上と将来の起業化を検討しました。

方法

小倉川河口より200m、水深6mの場所に、目合18節の網を用いて6m×6mの小割生簀を作成設置しました。また、マダコが密集しないように生簀内にバベの木(ウバメガシ)の枝や塩ビパイプ等を入れ、斃死率を下げるための工夫を行い、網清掃も適宜実施しました。

エサにはグチ、テンコチ、エソ等のほぼ価値の無い捕獲物を与え、資源の有効活用を図りました。

経過

- 6月2日、育成用生簀網製作。
- 7月7日、生簀小割設置。
- 7月7、8日、マダコ100kg投入、バベの木設置。
- 7月8日~8月5日、エサ投入。(7月23日、網掃除)
- 8月10日、網上げ。水揚げ230kg。

結果と考察

匹数で見ると、投入時800~900匹であったが、網上げ時約600匹で、生存率70.6%と昨年度の62.5%から8.1ポイント向上し、成長率も昨年1.5倍から2.3倍と大きく増加しており、バベの木などの設置がシェルターを作ることによって効果的であったと思われ、一定の成果が得られました。

今後の目標

畜養作業そのものに難しい点はなく、資源管理、資源有効活用につながるため、今後も創意工夫しながら漁価向上、もしくは起業化に向けて継続していきたいと考えています。

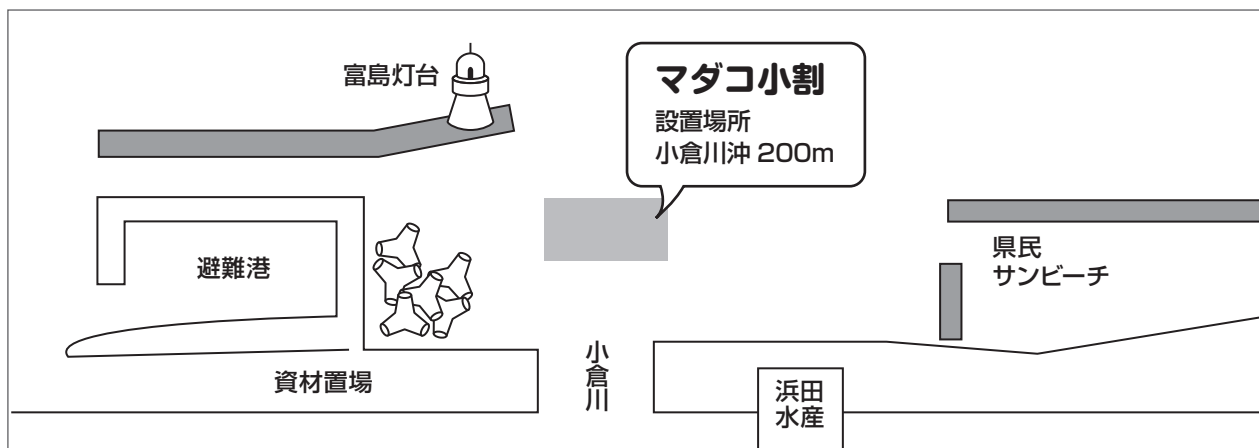


ウバメガシの枝を入れる



水揚げ時のマダコ

マダコ小割生簀設置場所詳細



賀川豊彦献身100年 記念事業の紹介

2009年は、賀川豊彦が神戸のスラム街に移住して救貧活動を開始して100年目にあたり、記念事業が神戸、東京、徳島などで実施されています。神戸での直近の事業の一部を紹介します。

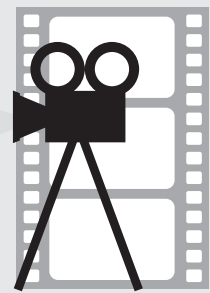


記念事業

記念式典・記念講演

日時：12月22日（火）14:00～17:00
神戸ポートピアホテル 南館1F ポートピアホール

スライド上映 —— 「賀川豊彦献身100年記念事業の歩み」
記念講演 —— 「賀川豊彦献身100年を機に、いま私たちにできること」
講師 —— 日野原重明氏（聖路加国際病院理事長）
鼎談 —— 「賀川豊彦の何を継承し発展させるか」
出演 —— 日野原重明氏・今井鎮雄氏・野尻武敏氏・・・他



**参加費
無料**

申込は往復ハガキに名前、連絡先、所属、返信用宛先を記入の上、下記へ
〒650-0022 神戸市中央区元町通5-1-6 共栄火災神戸ビル7F
賀川豊彦献身100年神戸プロジェクト事務局

出版発信事業

劇画「死線を越えて」

¥1,200（税込）

（11月1日発行 家の光協会 ISBN 978-4-259-52163-9）

自身の救貧、伝道活動をもとに執筆出版し、ベストセラーとなった著作「死線を越えて」を再構成、劇画化。



その他の事業

- (1) 研修事業…………… 研究の蓄積を活用し、団体、学校などに研修プログラムを提供。
- (2) 市民プログラム事業…… 「出張ミュージアム」「写真展」で賀川の活動、姿勢を広報。他

参考HP

賀川豊彦献身100年記念事業オフィシャルサイト
賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト
財団法人雲柱社 賀川豊彦記念・松沢資料館

<http://www.kagawa100.com/>
<http://www.core100.net/>
<http://zaidan.unchusha.com/index.html>

大輪田塾平成21年度修了式ならびに入塾式開催

10月27日(火)、兵庫県水産会館にて平成21年度大輪田塾修了式ならびに入塾式が、山田隆義塾長をはじめ、運営委員や県・系統役職員の臨席のもと開催されました。

修了式では、塾長より2期生の2名と3期生4名に修了証書が手渡され、修了生がそれぞれ今後の抱負を述べると、4期生の上西典幸さんより「贈る言葉」が贈られました。入塾式では5期生の代表として福井佐敏さんより「誓いの言葉」が述べられ、4期生の大西正起さんより「歓迎の言葉」が贈られました。その後、山田隆義塾長より塾生に訓辞を頂き、兵庫県を代表して藤原道生兵庫県農林水産局長、漁協系統団体を代表して秋武宏JF兵庫県信漁連会長よりご祝辞を頂きました。

式典終了後、修了生、塾生らは賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト委員会事務局顧問、西義人先生の

講義を受講しました。

今年は賀川豊彦が貧民救済活動を始めて100年目でもあり、その波乱の生涯の中で推し進めた協同組合活動に塾生は真剣な表情で聞き入っていました。



修了生の紹介

氏名	所属漁協	漁業種類
井上 雅夫	明石浦	底曳き網・のり養殖
小松 洋一	林崎	船曳き網・のり養殖
磯部 公一	室津	底曳き網・貝類養殖
富田 崇史	赤穂市	貝類養殖
中尾 満男	南あわじ	ワカメ養殖・五智網
大下 真司	但馬	沖合底曳き網

第5期生の紹介

氏名	所属漁協	漁業種類
福井 佐敏	姫路市中部	底曳き網
大角 生馬	坊勢	底曳き網
富山 和彦	一宮町	底曳き網
熊本 直和	浜坂町	漁協職員
渡部 恭広	兵庫県漁連	県漁連職員



修了生と関係者



入塾した第5期生と関係者

地産地消を街頭でアピール JR三ノ宮・元町駅前 街頭宣伝活動

JA兵庫中央会は9月28日、JR三ノ宮駅前とJR元町駅前、「みんなのよい食プロジェクト」運動の一環として、国産農畜産物をアピールする街頭宣伝活動を行いました。

JA兵庫中央会では今後も定期的にアピールするため、街頭宣伝活動を続けていきます。

日本農業の現状や全国平均を下回る兵庫県の食料自給率を訴え、国産農産物を積極的に選んでもらうためのアピールを行うことが目的。主婦ら女性層を中心にアピールすることを狙い、正午から50分間行いました。

役職員16人が駅前に立ち、「みんなのよい食プロジェクト」をアピールし、地産地消を訴えるチラシやティッシュペーパーを1,200人に配るほか、各会場の先着300人にJAたじま産のピーマンを無料でプレゼントしました。



行き交う人にパンフレットを配る中央会職員

2009年度生協大会を開催

兵庫県生協連合会では、10月の生協法施行記念の月に生協をアピールする場として、毎年「生協大会」を開催しており、今年は、10月7日（水）、兵庫県民会館において「2009年度 兵庫県生協大会」を開催し、会員生協の組合員、役職員など278名が集いました。

第一部・記念式典では、永年生協の発展に寄与した5人の役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が吉本副知事より贈られました。また、生協業務に精励した28名の役職員に浅田会長理事より「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られました。

第二部では、アトラクションとしてコープこうべ組合員によるコーラスと記念講演として甲南大学スポーツ・健康科学研究センター准教授 伊東浩司氏より「陸上競技（スポーツ）を通じて学んだこと」と題して講演をいただきました。

また併設した、生協紹介コーナーでは、コープこうべが自己生産品の菓子パン等の特価で販売、神戸市民生協は、運営している異人館「風見鶏の館」で取り扱っている珈琲の試飲・販売を行いました。その他、会員生協のパネル展示や財団兵庫健康財団による展示、医療生協による無料健康チェックの実施もあり、多くの参加者が検査結果によるアドバイスに熱心に耳を傾けていました。



講演される伊東浩司氏



兵庫県生協大会の様子

旬に想う

写真と文
遊方子

鴨脚樹 (イチョウ)

◆イチョウは生きている化石だという。恐竜の闊歩した二億年前に全盛を極めていた植物で、中国揚子江の下流に自生が見られる。高木だから秋の黄葉も大いに目立って美しい。延々と生き永らう事が出来たのは、根から周囲の草木を寄せ付けられない特殊物質を放出したからで、これをアレロパシー（他感作用）現象という。かつて、日本の秋を黄色く染めたセイタカアワダチソウにも当てはまるが、この帰化植物は衰退の兆しが顕著である。自己の出す化学物質で、自らが破滅への道を辿り始めたらしい。イチョウにそんな気遣いが無いのは、その生長が遅々としているせいかも知れない。

◆わが家のイチョウは間もなく2mを越すが、数年前ギンナンを蒔いたのがグングンと伸びた。晩秋に黄色くなって潔く葉を落とし、さっぱりした姿になる。イチョウは巨樹に育つ。あちこち社寺の境内で見られるが、姫新線佐用駅前にメ縄を張った大きな樹がある。樹高50、幹周り8mの亭々たる姿で、近隣を見下ろしている。また青垣町大名草（おなご）の常龍寺にあるイチョウも大きい。幹周り10m、多くの気根が垂れ下がり、地中に埋まり太くなり樹林を形成している。荘厳で不思議な霊気が漂う。この巨大な姿は一見の価値あり。

◆街路樹としてのイチョウは、整然とした樹形と色彩変化の美しさにある。晩秋の黄葉期は勿論だが、春の芽生え時も周囲のビル

群に映えて、実に見事な都市美を見せる。その語源は、中国で葉の形からカモの脚の水掻きを連想し鴨脚（ヤーチャオ）と呼んだ事から訛ってイチョウになった。また、植え付けても銀杏（ギンナン）が結実・採取できるのは孫の代になるため、漢字で「公孫樹」と充てる。雌雄異株で結実は雌樹のみ、秋に自然落下し周囲に異臭を漂わせる。これを防ぐため、街路樹には雄樹を使うが雌雄の見分けが難しく、植木屋を泣かせているという・・・。

◆新しく任命された外国特命全権大使が、正式に皇居を訪問する場合、東京駅丸の内口から皇室用の車か儀装馬車で皇室へと向かう。この駅と皇居を結ぶ通りの両脇にイチョウ並木があり、黄一色の見事さは素晴らしいの一語に尽きる。皇居内にも高木のイチョウは多い。イチョウは街路の並木となって、その善さを十二分に発揮するようだが、明治神宮外苑の青山通り、札幌旧道庁舎近辺、大阪の御堂筋、姫路駅から城へと続く大手前通りなど、晩秋の黄金色の装いは、ハッと息を呑むような素晴らしさを見せてくれるのである。



黄葉（万葉の森公園：稲美町）

大輪田塾だより

「海洋環境」と「地産地消」

10月6日(火)、兵庫県水産会館で大輪田塾が開催され、兵庫県但馬水産技術センターの玉木哲也研究員が「海の環境と魚」と題し、また兵庫県総合農政課地産地消係の東浦実係長が「兵庫県の地産地消の現状と課題」と題して講義が行われ、今回は4期生と入塾候補生、あわせて5名が受講しました。

玉木研究員は、90年代より変化し始めた日本海での漁獲について、レジームシフトという地球規模の気候変動による生態系の変化であることを、ソデイカやサワラを例に講義され、東浦係長は地産地消問題が輸入食品や健康ブームによる他地域の食品の氾濫から生産者と消費者の距離が離れ、生産意欲や後継者問題にも影響を及ぼしていることの見直しの面があることや、直売所の整備、学校給

食への地元食材の供給など、全般的な取り組みについて講義されました。

塾生は、ひょうご食品認証制度との関係などについて質疑を繰り返していました。



玉木研究員の講義



東浦係長の講義

表紙の言葉



「大輪田塾入塾式で緊張の中、山田塾長の訓辞を受ける第5期生」

10月27日に行われた大輪田塾入塾式で、新たに入塾する5人が勢揃い。次代の漁業を担うべく、気持ちも新たに塾長の訓辞に聞き入っていました。